

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●朝日杯フューチャリティSはグレナディアガーズが優勝

12月20日(日)に行われた朝日杯フューチャリティS(G I)ではグレナディアガーズ(牡2歳/栗東・中内田充正厩舎)が勝利しました。前走で未勝利戦を勝ち上がったばかりの同馬にとっては重賞初挑戦でのG I制覇。また1勝馬による同レース優勝は、グレード制が導入された1984年以降では、2015年のリオンディーズ以来5年ぶり、6頭目のこととなります。

### ●C.ルメール騎手がJRA年間200勝を達成

12月19日(土)の5回中山5日・第8レースではサトノパシュートが1着となり、同馬に騎乗したクリストフ・ルメール騎手(栗東・フリー)は、2018年以来2年ぶり2回目となるJRA年間200勝を達成しました。

### ●須貝尚介調教師がJRA通算400勝を達成

12月20日(日)の3回中京6日・第8レースではルビーカサブランカが1着となり、須貝尚介調教師(栗東)は、現役43人目となるJRA通算400勝(延べ3647頭目)を達成しました。

### ●岩田望来騎手が中京競馬年間リーディングに輝く

12月20日(日)で本年の中京競馬が終了し、1回中京に12勝、2回中京と3回中京に各6勝をあげた岩田望来騎手(栗東・藤原英昭厩舎)が、計24勝で中京競馬リーディングジョッキーとなりました。また「中京競馬記者クラブ賞」は、チュウワウィザードでチャンピオンズカップ(G I)を制した大久保龍志調教師(栗東)が受賞しました。

### ●アーモンドアイらの競走馬登録抹消

2018年に牝馬三冠を制したほか、2018年・2020年ジャパンカップ、2019年ドバイターフ(UAE)、2019年・2020年天皇賞(秋)など国内外のG Iで計9勝をあげたアーモンドアイ(牝5歳/美浦・国枝栄厩舎)は、12月19日(土)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績14戦10勝・海外1戦1勝で、今後は北海道安平町のノーザンファームで繁殖馬となる予定です。また2020年アイビスサマーダッシュ(G III)の勝ち馬ジョーカナチャン(牝5歳/栗東・松下武士厩舎)は、12月17日(木)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績15戦5勝で、今後は北海道新ひだか町の平野牧場で繁殖馬となる予定です。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●サクセスエナジーが兵庫ゴールドT(園田)で5度目の重賞制覇

兵庫ゴールドトロフィー(Jpn III、12月23日、園田、1400m)は、中団から追い上げた2番人気のサクセスエナジー(松山弘平騎手、牡6歳、父キンシャサノキセキ)が、逃げ粘るベストマッチョ(川崎)をゴール前で内から差し切って優勝、58.5秒のトップハンデを克服しました。スタートで躓いた1番人気のラプタスは3着、トップウイナーは6着、ゴールドクイーンは11着でした。

### ●プリンセスCは地元のゴールデンヒーラー【各地の主要2歳重賞】

プリンセスC(11月30日、水沢、1400m、牝馬)は、2番手から3、4コーナー中間で先頭に立った2番人気のゴールデンヒーラー(父タートルボウル)が後続をクビ差抑え、知床賞に続く重賞2連勝。単勝1.3倍の支持を集めた北海道からの遠征馬ラジアントエンティは、骨折のため競走を中止しています。カベラ賞(11月23日、佐賀、1800m)は、中団から追い上げた3番人気の北海道からの転入馬ブリマステラ(牝、父フリオーソ)が直線に入って間もなく抜け出し、初の重賞制覇。寒菊賞(12月14日、水沢、1600m)は、4番手から4コーナーで先頭に立ったリュウノシンゲン(牡、父グランプリボス)が、単勝元返しに支持に応じて3度目の重賞勝ちを果たしています。

### ●12月29日の東京大賞典(大井)で3連覇を狙うオメガパフューム

東京大賞典(G I、12月29日、大井、2000m)は、前2年の覇者オメガパフュームが中心、以下ウェスターランド、ダノンファラオ、ハナズレジェンド、ノンコノユメ(大井)、モジアナフレイバー(大井)、デルマルーヴル、ヒストリーメイカー、テオーケインズの順に有力視されます。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●香港年度代表馬2回ビューティージェネレーションが引退

2017/18年、2018/19年と2シーズン続けて香港の年度代表馬に輝いたビューティージェネレーション(騾8歳、父ロードトゥロック)が12月13日のG 1香港マイル5着を最後に引退しました。ビューティージェネレーションはオーストラリアで7戦2勝の後、香港に移籍。J.ムーア調教師の管理の下(今シーズンはムーア調教師が香港を去ったことに伴い、D.ヘイズ厩舎に所属)、2017年・2018年に連覇したG 1香港マイル(芝1600m)、同じく2018年・2019年に連覇したG 1チャンピオンズマイル(芝1600m)などG 1を8勝。香港賞金王の座にも就きました(総取得賞金1億623万3750香港ドル=約14億8727万円/1香港ドル13円で換算)。今後はオーストラリアにある功労馬の繋養施設であるリヴィングレジェンズで余生を過ごします。

### ●2021年の米国G 1は100レース

2021年の米国グレードレース一覧が12月18日に米国グレードステークス委員会から発表されました。グレードレースに認定されたのは2020年に比べて3レース減となる445レース。G 1は、降格がなかった一方で、来年創設3年目を迎えるサラトガダービー招待S(3歳、芝1900m、サラトガ競馬場)がグレード格付けなしから一気にG 1に昇格したため、2020年に比べて1レース増となる100レースとなりました。